



平成 19 年 3 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社 クリムゾン
代表者名 代表取締役社長 児玉俊明
(JASDAQ・コード 2 7 7 6)
問合せ先 専務取締役 藤田 潔
電 話 0 3 - 3 5 4 8 - 1 5 1 5

平成 19 年 1 月期業績予想の修正及び特別損益の発生に関するお知らせ

平成 18 年 12 月 12 日付「連結決算への変更に伴う平成 19 年 1 月期連結業績予想の公表に関するお知らせ及び同期の個別業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表しました、平成 19 年 1 月期の業績予想（平成 18 年 2 月 1 日～平成 19 年 1 月 31 日）を下記のとおり修正いたします。

また、特別損益の発生についてお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想数値の修正

平成 19 年 1 月期（平成 18 年 2 月 1 日～平成 19 年 1 月 31 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	16,273	344	359
今回修正予想（B）	15,722	486	463
増減額（B - A）	550	142	104
増減率	3.4		

2. 通期個別業績予想の修正

平成 19 年 1 月期（平成 18 年 2 月 1 日～平成 19 年 1 月 31 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想（A）	15,057	378	344
今回予想（B）	14,607	421	341
増減額（B - A）	450	43	2
増減率	3.0		
（ご参考） 前年実績（平成 18 年 1 月期）	18,589	1,076	467

3.業績予想修正の理由

平成 18 年 12 月 12 日に連結業績予想を発表した時点では、売上高 16,273 百万円、経常損失は 344 百万円、当期純損失は 359 百万円でありました。しかしながら、卸売事業、小売事業ともに 12 月終盤から 1 月にかけての冬物商品と梅春商品の売上状況が予想より下回り、期末の冬物商品の評価減が予想より上回りました。その結果、売上高総利益額が、予想数値を 173 百万円下回る見込みとなりました。

販売費及び一般管理費は、予想数値を 21 百万円下回ったものの、売上高総利益額の落込みを吸収するには至らず、経常損失は 486 百万円の見込みとなりました。

また、事務所移転（予定）に伴う特別利益 280 百万円の計上があったものの、不採算小売店舗の店舗内装等の減損損失 199 百万円を特別損失として計上し、当期純損失が 463 百万円の見込みとなりました。

平成 18 年 8 月 25 日付でレディスカジュアルウェアの SPA 業態（企画・生産・小売業）であるパイオニアトレーディング㈱が子会社となったことにより、今下期より同社を連結することとなりました。

パイオニアトレーディング㈱の売上高及び利益において寄与を見込んでおりましたが、次の理由により、予想通りの実績が上がり見通しとなりました。

同社においては、商品の調達ルートについて従来の中国・香港における買付調達に加え、日本での企画により中国生産する方法も加える事により品揃えの充実を図ることといたしました。

しかしながら、調達方法の追加による、商品の店舗到着遅れと、前年シーズンの持越し商品の販売を行ったこと等により、12 月終盤からの冬物のセール販売と梅春物の立ち上りでの売上高が伸びず、利益ともに予測を下回ることとなりました。

クリムゾン単体においては、売上高が 14,607 百万円（前回予想 15,057 百万円）、経常損失は 421 百万円（前回予想 378 百万円）、当期純損失は 341 百万円（前回予想 344 百万円）の見込みとなりました。

単体においても連結と同様の理由により、売上高及び経常損失額が予想数値に対して、届かない見込みとなりました。

尚、平成 19 年 1 月期の実績数値については、監査法人の監査が終了し数値が確定次第、公表させていただきます。

以 上